

令和 8 年度

「運営に関する計画」

(中間)

大阪市立 諏訪小 学校

令和 8 年 10 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合は、R4:65.6% R5:72.6% R6:79.8% R7:82.3%とこの数年で年々上昇している。教職員による子どもへの細かな声かけや、学校を楽しく感じることができるような取り組みの工夫等の効果が出ていると考える。しかしながら、大阪市平均 (R7:83.5%) をわずかに下回っている。

小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合は、R4:67.7% R5:68.2% R6:75.8% R7:80.1%と、この項目についてもこの数年で年々上昇している。教職員による、いいところ見つけ等の取り組みの工夫等自分に自信を持てる取り組みの効果が出ていると考える。しかしながら、大阪市平均 (R7:82.0%) をわずかに下回っている。

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合は、R6:71.2% R7:73.7%と、1 年間でわずかに上昇した。教職員は授業の中で、ペア学習やグループ学習等、対話的な取り組みを意識して取り入れていることの効果が出ている。しかしながら、大阪市平均 (R7:79.3%) を大きく下回っている。

小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びをふくむ) やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合は、R6:86.4% R7:85.9%と、1 年間でわずかではあるが低下した。本校は体育を研究教科として取り組んでおり、引き続き運動が好きな子を増やせるような取り組みを継続していく。

○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して週 3 回以上と回答する児童の割合は、R7:42.7%であり、大阪市平均の 62.5%より大きく下回っている。授業での端末の利用を積極的に進めていかなければならない。

教職員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間は、令和 7 年度は 16 時間 59 分であり、昨年度と比べ 4 時間 50 分削減することができた。大阪市平均の 22 時間 10 分を大きく上回っている。今後も引き続き教職員の超過勤務の解消に取り組んでいく。

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和１１年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。
- ・令和１１年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８３％以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和１１年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７７％以上にする。
- ・令和１１年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８８％以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和１１年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度利用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を６０％以上にする。
- ・令和１１年度の教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間を１６時間以下にする。

２ 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和８年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８３％以上にする。（令和７年度 82.3%）
- ・令和８年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８１％以上にする。（令和７年度 80.1%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和８年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７４％以上にする。（令和７年度 73.7%）
- ・令和８年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８６.５％以上にする。（令和７年度 85.9%）

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和８年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度利用しましたか。」に対して、週３回以上と回答する児童の割合をの４５％以上にする。（令和７年度 42.7%）
- ・令和８年度の教員の１か月あたりの平均時間外勤務時間をの１６時間２９分以下にする。（令和７年度 １６時間３０分）

３ 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式2)

大阪市立 (諏訪小学校) 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・令和8年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。(令和7年度82.3%) ・令和8年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。(令和7年度80.1%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 学年（異学年）や学級での活動を充実させて、仲間づくりを進める。		B
指標 学級での仲間づくり活動を月2回以上、学年や異学年（ペア学年）での活動を年2回以上行う。主に20分休みや昼休みを学級活動に、学活や総合、生活の時間を学年や異学年活動に活用する。		
取組内容②【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 友だちのいいところを見つけたり、学校で楽しかったことを話したりする場や、友だちのことを知る（友だちと関わりを持つ）活動を設定する。		B
指標 帰りの会や学活の時間など、学級の実態に合わせて、自己肯定感を高める活動やお互いのことを知る活動を週3回以上取り組む。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
みんな遊びや学級活動、異学年交流などを各学年の実態に応じて継続して実施し、仲間づくりの機会を設けることができている。また、「いいところ見つけ」などを通して、友だちの良さや頑張りに目を向ける姿も見られるようになってきた。高学年では、友だちの良さを具体的に捉え、表現する内容も豊かになってきている。一方で、低・中学年では活動のマネリ化や内容が表面的になるなどの課題もある。ここには学年の発達段階による違いがあるとみられる。全体としてはおおむね順調に取り組みが進んでいる。		
年度末までの改善点		
今後も、学年の発達段階や実態に応じてみんな遊びや異学年交流などの活動内容を工夫し、児童が互いの良さをより深く知ることができる取り組みを進める。また、友だちの良さだけでなく、自分自身の良さや成長にも気付ける活動を取り入れ、自己肯定感の向上につなげていく。		

(様式2)

大阪市立 (諏訪小学校) 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・令和8年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を74%以上にする。(令和7年度73.7%) ・令和8年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.5%以上にする。(令和7年度85.9%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 自分の考えを述べることができる児童を増やすため、様々な学習活動において積極的に話し合う活動を取り入れる。話し合う人数の工夫（ペア・グループ等）、話型の提示、振り返りの時間の確保などの手立てを講じる。		B
指標 学習活動を行う日において、週5回以上、話し合う活動を取り入れる。		
取組内容②【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 指導者の体育学習の指導力向上のために、校内研修会を行う。		A
指標 年間3回以上、校内で体育学習についての研修会を行う。		
取組内容③【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 体を動かすことの意欲・関心を高める。		B
指標 体を動かす強調週間を年に3回以上実施する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容①：全体的に週5回以上、話し合い活動を取り入れ、自分の考えを他者に伝えることができている。自分の考えがまとまらない児童に対しては、指導者と一緒に考えたり、考えをもっている児童の話の聞いたりしている。自分の考えを伝えられているが、ペアまたはグループ内で考えを広げたり、深めたりすることは、どの学年も十分にできていないのが現状である。		
取組内容②：体育研修会を3回実施し、計画していた回数を達成している。研修を通して学んだことを各学級で生かしている。今後は研修内容を取り入れた各学級の実践を共有し、学校全体に広げていく必要がある。		

取組内容③：外遊び週間、なわとび週間、かけ足週間を計画に基づいて実施を予定している。外遊び週間では、より多くの児童が参加できるよう、取り組みの周知や参加しやすい環境づくりが必要である。

年度末までの改善点

取組内容①：指導者が話し合いで考えを深められる発問や課題を提示するなど、指導内容を工夫する必要がある。

取組内容②：各学級での取り組みの偏りが出ないように、実践例を共有し、研修で得た学びが学校全体に広がるようにする。

取組内容③：外遊び週間の目的や内容を周知し、外遊び週間では、より多くの児童が参加できるようにする必要がある。

(様式 2)

大阪市立 (諏訪小学校) 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ・ 令和 8 年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度利用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合をの 4 5 % 以上にする。 (令和 7 年度 42.7%) ・ 令和 8 年度の教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間をの 1 6 時間 2 9 分以下にする。(令和 7 年度 1 6 時間 3 0 分)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向番号 6、教育 DX の推進】 毎朝、心の天気の入力を行う。 指標 1 日 1 回、心の天気の入力を行う。	B
取組内容② 【基本的な方向番号 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の時間外勤務を減少させるような工夫を行う。 指標 週に 1 度、ゆとりの日を設定する。 2 学期制を導入し、行事等をより弾力的に行うことで業務の効率化を図る。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
心の天気の入力が習慣化できている児童とそうでない児童の差ができている。指導者が全体への声掛けを行っていることで一定数の児童は進んで入力ができている。しかし、一部の児童に関しては声掛けを続けていても未入力のままになっている。全員が確実に入力を完了しているかどうかを毎日、確実に確認するには時間の制約もある中なかなか実行することが難しいという現状である。また、端末の持ち帰りを行うことで自宅に忘れてくる児童や、自宅での充電が不十分であるために学校で充電を行い入力が疎かになっている事例なども挙げられた。 7 月時点での教員一人当たりの平均時間外勤務時間は 19 時間 12 分であった。(8 月時点は 16 時間 17 分) 昨年度の状況と比べると 40～50 分減少しているため、成果はできていると考える。しかし年度目標を達成するためには、1 日当たり約 10 分程度勤務時間を短縮する必要がある。	
年度末までの改善点	
まなびのポータルの中にある「生活ウォッチャー」を活用することで未入力の児童を確実に把握する。登校時、20 分休憩、昼休み、下校時など学級の実態に沿って入力状況の確認を行うことでピンポイントで該当児童への声掛けを行う必要がある。	

勤務時間を短縮するためセット時刻を通常は 18 時 30 分、ゆとりの日は 18 時に設定し、日々喚起していく。